



工夫庵の“柄” 其の二

「工夫庵の“柄” 其の一」に引き続き、弊社カタログ「座 Vol. 15」に掲載されております、座布団や暖簾の柄の中から、今回は「総柄の吉祥文様(きっしょうもんよう=縁起がいいとされる動植物や物品などを描いた図柄)」を集めました。

それぞれの柄が持つおめでたい意味を読み解いて頂き、今後の商品選択に活かして頂けると幸いです。

花鳥紋(かちょうもん)

花と鳥を描いた文様を総称して花鳥紋と言います。花は菊・牡丹・かきつばた、鳥は千鳥・燕・鶴・鳳凰などがよく用いられます。

この文様は生命賛歌、長寿願望、子孫繁栄を意味する吉祥文様として用いられています。



花鳥紋

青海波(せいがいは・せいかいは)

円弧を同心円に重ねた鱗(うろこ)状の形を、一方向に繋ぎ、波の文様として構成しています。

この文様は遠くカスピ海周辺に発し、中国西域を経て、日本に入ってきました。

内海の静かな波をモチーフにして、絶え間なく広がっていく波の力と永続性を表現していることから、吉祥文様として日本にも定着しました。



青海波

波兔(なみうさぎ)

古来より兎は「ツキを呼ぶ」縁起の良い動物とされ、多産であることから繁栄や飛躍の象徴とされました。

また威勢よく波に乗って更に飛躍するという波兎は開運飛躍の吉祥文様です。

その由来は謡曲「竹生島^{*1}」で唄った一節が元になったとされています。



波兎

宝尽くし(たからづくし)

宝尽くしは福徳を招く、おめでたい物を集めた文様です。古来、中国から伝わった文様で、日本では室町時代末から吉祥文様として定着しました。身分の上下、男女にかかわらず、あらゆる階層の人達に愛された文様です。高級な織物から庶民が使う手ぬぐいまでこの文様が使われました。



宝尽くし

唐草(からくさ)

唐草模様は泥棒のイメージがありますが、実はシルクロードを通して中国から日本に伝わった吉祥文様です。四方八方に途切れることなく伸びていく蔓(つる)が、生命力の強さ、終わりのない繁栄を表しています。

植物の茎や蔓などを文様としたものの総称で、花・葉・実などをつけています。使われる植物も様々で、1種類の植物の名前をさすものではありません。



唐草

ちょっと豆知識

^{*1}竹生島とは、滋賀県の琵琶湖の中にある島で、弁才天を祀り、江ノ島・厳島(宮島)と共に日本三大弁才天とされています。

弊社では古来から親しまれてきた伝統的な柄を「宝物」と捉え、これから先の未来へ大切に伝えるべく商品化しております。今回ご紹介した総柄は、さりげなく「縁起の良い・おめでたい」を表現して、お客様の商売繁盛・家内安全等に繋がる事を願い製作しております。まだまだ沢山の魅力的な柄がございますので、引き続き“其の三”でご紹介していきます。ご期待下さい！！

www.the.kyoto.jp

一宮株式会社

〒615-8174 京都市西京区榎原中垣外7-1
TEL075-394-7011(代) FAX075-394-7022